

県内産イネWCSの分析結果

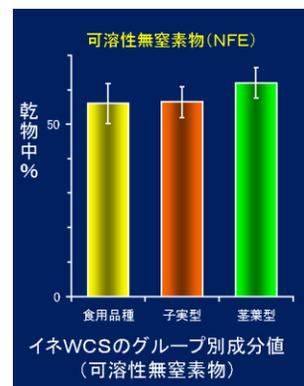
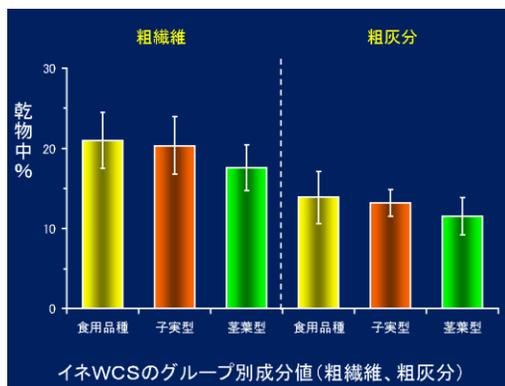
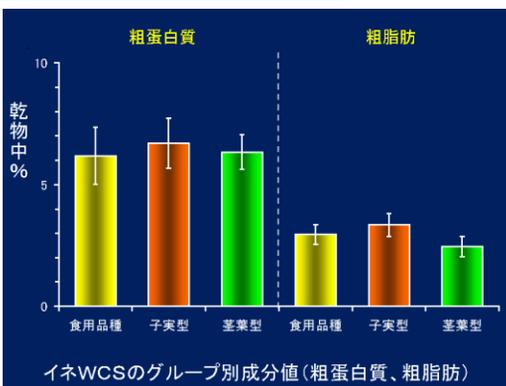
岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養技術研究室 平井 申明

背景と目的 水田の転作作物としてイネ発酵粗飼料(イネWCS)の作付けは県内においても年々増加しており、県内の作付けは平成23年には346haになっている。しかしイネWCSは品質差が大きいことや、子実部(籾)の消化が悪く、未消化で糞中に排泄される部分が多いことが課題となっている。近年、子実が少なく茎葉が多収で、耐倒伏性にも優れる「たちすずか」「たちあやか」等の茎葉型品種が開発され、県内でも普及を進めている。今回は、平成22~23年度に県内各地で調製されたイネWCSの分析結果について、茎葉型品種に注目して他品種との比較を行った。またイネWCSの乳酸発酵に影響する因子について検討した。

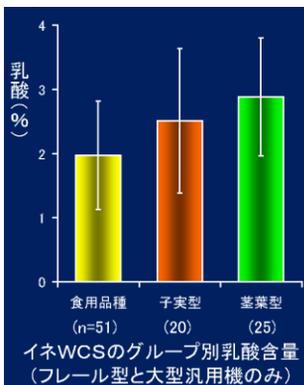
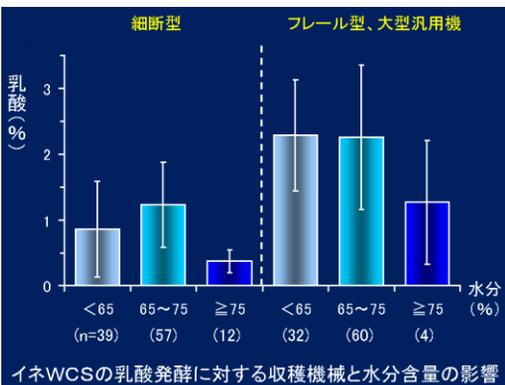
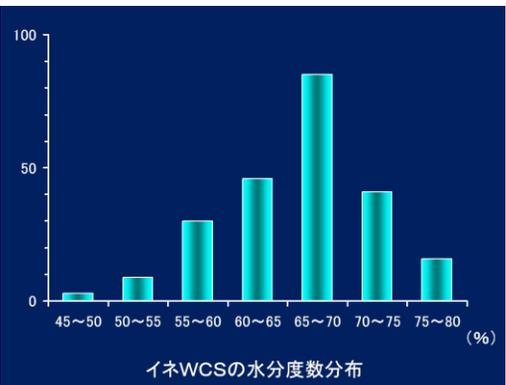


イネWCSの品種別分類

区分	特徴	品種名	点数	
食用品種		アケボノ	40	
		ヒノヒカリ	28	
		その他食用種	23	
飼料用品種	子実型	籾の粒が大きい	ホシアオバ	73
		穂に多数の	クサノホシ	8
	茎葉型	籾をつける	モミロマン	7
		籾が少なく茎葉が多収	たちすずか	16
		たちあやか	9	



結果(一般成分) 乾物中の粗蛋白質含量は3区に差はみられなかったが、茎葉型では粗脂肪、粗繊維、粗灰分が食用品種及び子実型に比べ低い傾向にあり、可溶性無窒素物(NFE)含量は他区より高い値であった。(p<0.001)



結果(発酵品質) サイレージ発酵品質に大きな影響を与える水分含量は50%未満から75%以上までバラツキがみられた。収穫機械別では、フレール型及び大型汎用機では低水分試料で乳酸含量が高かったが、細断型では低水分試料においても乳酸含量が比較的低値であった。フレール型及び大型汎用機で収穫した試料に限定して品種間比較を行うと、茎葉型は食用品種より乳酸含量が高く(p<0.001)、子実型とは有意差はみられなかった。

まとめ 茎葉型品種のイネWCSはNFE含量が他品種より顕著に高く、乳酸含量も高い傾向がみられた。茎葉の収量が多く、茎葉中に可溶性糖類が蓄積されやすい特徴が県内産試料の検査成績に表れていた。また収穫機械別では、フレール型と大型汎用機では収穫時に叩いてつぶす工程が入り、乳酸発酵が進みやすくなっていると考えられた。